

KITOcat－東海目録（TOMcat）からの変遷

東海地区医学図書館協議会目録ワーキンググループ
愛知医科大学医学情報センター（図書館）
坪内政義

2013 年 4 月に東海目録は Medical Library Network : KITOcat へと移行しました。以下に、東海目録の発足から現在に至る経緯をまとめました。

I. 東海地区医学図書館協議会

1972 年に日本医学図書館協会（JMLA）の東海地区会として設立。2005 年の JMLA 法人化に伴い、東海地区会とは別の団体として位置付けられました。その主な理由は、独自の予算を要する東海目録を事業としていたからです。正会員 12 機関（大学図書館 8、病院図書館 4）、目録会員 62 機関からなります。（2013 年 6 月現在）

II. 東海目録の年表

1997 年 11 月 27 日の東海地区医学図書館協議会実務担当者会議で、東海地区の病院図書室事情、特にネットワークが存在しない現状を改善するための第一歩として総合目録の必要性が話し合われました。それを受けて、1999 年にワーキンググループが発足、病院図書室の意識調査や目録データ整備が開始されました。

2002 年 12 月、冊子体「東海目録 2002 年版」を発行。冊子には地区ネットワークのシンボルという意味がありましたが、実務上では Web 版が求められることは当初から判断がついていました。2005 年 2 月に Web 版東海目録（TOMcat = The TOKAI Medical Serials Catalog）を運営開始。自館のサービス方針に従って所蔵情報の提供対象や業務を制限することができるようにし、規模や運用が一律でない目録参加機関の事情に配慮しました。

2007 年 4 月に会員制を導入して予算面の運営方法を見直し。同時期に目録研修会を開始して、病院図書室業務の基礎知識シリーズを現在まで継続しています。これから力を注ごうとしているのが電子ジャーナル書誌の作成です。資料が電子媒体に変わつつある現在、電子版の書誌・所蔵情報を提供しなくては目録の価値は薄れます。

緩やかで、実用に重きを置く運用、そして、業務や研修を通してのコミュニケーションこそ、地区（小規模）目録とネットワークの最大の意義といえます。

III. 新目録システム－Medical Library Network : KITOcat （キトキャット）

2011 年から 12 年にかけて、株式会社ナレッジワイヤからシステム変更の提案を受け、同時に、近畿病院図書室協議会との間で目録統合のための協議が始まりました。何度かの会合を経て、東海と近畿の目録が揃って新目録システム KITOcat に移行することが決まりました。すなわち、新システムは複数のネットワークの参加が可能で、参加館自らが公開するネットワークを選択できるようになっているため、設定次第で

ふたつの会の目録データを同時にも別個にも検索、閲覧できるようになったのです。

2012年11月からオープン準備と説明会を実施し、2013年4月に本稼働が開始されました。そして、二か月後の6月には早くも参加ネットワークが次のように拡大しています。(KITOcatの詳細は前号のナレッジワイヤ大西幸雄氏の記事をご参照ください)

近畿病院図書室協議会－KHLA 目録

東海地区医学図書館協議会－東海目録

福島県医療機関図書室協議会－福島目録

中国四国九州医学図書室ネットワーク－中四九ネット目録

表1 KITOcat 本稼働時の状況 (2013年4月現在)

【all】

登録機関数	194
登録雑誌タイトル (うち冊子=12,404 MOL=967 PQ=1,039 他の EJ=2,418)	16,828
登録所蔵数 (うち冊子=64,986 MOL=37,713 PQ=1,067 他の EJ=4,593)	108,359

【東海】

登録機関数	88
登録雑誌タイトル (うち冊子=11,777 MOL=967 PQ=1,039 他の EJ=2,415)	16,199
登録所蔵数 (うち冊子=43,442 MOL=25,142 PQ=1,067 他の EJ=4,577)	74,228

IV. KITOcat と地区活動の将来

NACSIS-CATでILLを行う病院図書室もあるなか、地区目録の意味を問う声もあるはずです。しかし、私たちワーキンググループが知る限りでは、病院図書室の整備状況は千差万別で、多くの図書室にとってNACSIS-CATへの参加は難しいというのが現状ではないでしょうか。それでも、文献提供は必須の業務であり、自室で文献が入手できなければネットワークが頼りになる。東海目録<KITOcat>は、東海地区病院図書室の協力体制を維持して行くためのツールです。その利用をとおして、ILLの方法や手段、学術資料に関する知識も広まるとよいと思います。また、病院図書室と大学図書館の連携も欠くことのできない要素として大切にしたいものです。

東海地区のすべての図書館(室)が館種や規模を問わず同様の水準で業務を行い、全国ネットワークに参加する日が来れば、地区目録は役割を終えるかも知れません。けれども、目録運営をとおして培われた協力と連携の精神は東海地区の財産として継承される。そう願っています。

※KITOcatのKITOとは、KINKIとTOKAIの頭2文字を並べたものですが、正式名称が別にあるわけではなく、従って、略称ではありません。